

2018 年度 美術史 C(担当・加藤志織)

課題レポート

複製品とオリジナルの貢献。

～社会に必要だと思われる芸術とは～

学歴番号 11827041

情報デザイン学科 クロステックデザインコース

山田 宇矩

1 はじめに

社会に必要な芸術作品を考えるにあたり、そもそも、芸術と言うものは衣、食、住とは別の場所に存在するカテゴリーであり、極端に言えば、芸術が無くとも私達は生きることができるのである。この事を踏まえた上で私は「身近な芸術」こそが世界にとって必要な芸術である、と私は考える。現代において身近でないものを日々の生活に使うことはまずないだろう。

さて、世界中にいる人間にとって「身近な芸術」とはなんであるだろうか。きっとそれは特定の物ではないだろう。個人ごとに、地域ごとに、国ごとに考え、思想は違うものであるからだ。

結論を言うと私は「レプリカ、及び複製品」こそが社会において必要な芸術だと考える。これは特定の物に対してのものを指しているのではなく、数多くの芸術作品に対してのものを指している。

大多数の人々にとって芸術は日常を彩るものとして欠かせないものである。街中を歩けばポスターや建物内で上から流れてくる音楽、本屋で並べられている芸術関連の本などで「芸術」に触れることはできるだろう。しかし、その中で唯一無二である作品はあるだろうか？確かにそれらは作られた瞬間は世界でただ一つしか無いものであっただろう。しかしそれは、複製され、複製されたものが世の中に出回る。もちろん、私達がオリジナルを目にすることは無い。

2 結論

そのことを考えれば、生産者にとっては自分の作品、芸術品を作ることが必要なだろう。しかし、社会で必要とされているものはそれを

元にして作られた複製品である。複製品の役割は、数を用いてその価値を広めることにある。

私達はあまり意識こそしていないが、確実に複製された芸術作品の数々は社会に必要とされているのだ。